

目標	IX	文化芸術の振興		
施策	27	文化芸術活動の充実		
主な取組	○ 文化芸術活動への参加の促進			
	○ 子供たちの文化芸術活動の充実			
	○ 障害者の文化芸術活動の支援			
	○ 県立美術館などにおける活動の充実			
	○ オリンピック・パラリンピックなどの開催を契機とした文化芸術活動の振興			
担当課	特別支援教育課、文化資源課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要	事業の自己評価	担当課
埼玉県芸術文化祭の開催	11,709	<p>○地域文化事業 市町村や文化団体との共催により、地域に密着した伝統芸能、音楽コンサート、美術展覧会など県内各地で開催 ・令和3年8月～令和3年12月に36団体が実施（8市町、28文化団体） ※当初57団体を予定 ・参加者数：38事業、544,090人</p> <p>○第70回埼玉県美術展覧会 令和4年度に再延期（県民の創作した美術作品を近代美術館で展示・公開（日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門））</p> <p>○埼玉の美術史 1871-1960・Web美術展 in Saitama 埼玉県美術展覧会運営委員会との共催により、県民の美術活動の発表・鑑賞の場として美術展覧会及びオンライン公募展を開催。 ・埼玉150周年記念展「埼玉の美術史 1871-1960」会場：近代美術館 開催期間：令和3年6月1日～23日 観覧者数：1,764人</p> <p>・Web美術展 in Saitama 開催期間：令和3年9月1日～10月29日 出品者数：803人 閲覧回数：12,089回</p> <p>○芸術文化ふれあい事業 文化団体が学校や公民館などに出向いて、公演や実技指導を行う事業 ・音楽、美術、舞踊、演劇・演芸、文芸、生活文化、国際交流の7分野、59メニュー ・参加者数：34事業、2,174人 ※当初60事業を予定</p> <p>○文化団体・イベントマッチング事業 発表の機会を求める文化団体と、県内で開催されるイベントの主催者をマッチングする事業。 ・参加者数：2事業、115人</p>	<p>○地域文化事業 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、21事業が令和3年度の実施を見送った。実施事業数は、令和2年度の14事業から2倍以上の38事業となった。コロナ禍での開催の工夫として、オンラインや映像記録等の取組も見られた。</p> <p>○埼玉の美術史 1871-1960・Web美術展 in Saitama 埼玉150周年を記念して本県の美術史を振り返る美術展を開催し、県民に鑑賞の機会を提供した。また、Web美術展 in Saitamaでは、埼玉県芸術文化祭として初めてオンラインで県民からの公募作品を展示し、コロナ禍における発表機会の確保に努めた。</p> <p>○芸術文化ふれあい事業 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和3年度の事業実施を見送る施設もあり、実施事業数は減少した。令和2年度に引き続き、障害者福祉施設等での利用拡大を図った。</p> <p>○文化団体・イベントマッチング事業 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2団体の出演・展示となった。参加した団体からは、「成果発表の貴重な場となった」、イベント側からは、「来店者に身近な芸術鑑賞の機会を提供できてよかった」との声が寄せられている。</p> <p>○協賛事業 協賛申請の増加に向け、より広く周知する必要がある。</p>	文資

		<p>○協賛事業 埼玉県芸術文化祭の趣旨に賛同して行われる各種芸術文化事業を県芸術文化祭の協賛事業として承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間：令和3年4月～令和3年12月 ・承認件数：58事業 ・参加者数：297,530人 		
<p>障害者の生涯を通じた多様な学習活動推進事業 → 施策13参照</p>				<p>特教</p>
<p>県立博物館・美術館等における教育・普及事業</p>	<p>18,549</p>	<p>○歴史と民俗の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくり工房」通常体験メニュー 藍染めハンカチなど：8種類 開館日実施 参加者数：5,002人 ・「ものづくり工房」特別体験イベント 藍の型染めミニトートバッグなど：10種類 12回 参加者数：143人 ・歴史民俗講座：4回 参加者数：217人 <p>○さきたま史跡の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さきたま講座の開催：年9回（内1回中止、1回動画による期間限定の配信） 参加者数：134人 ・さきたま子供講座の開催：年2回 参加者数30人 ・子供製作体験の開催：年3回 参加者数23人 ・中高生のための考古学講座：年1回 参加者数15人 ・学校との連携（出前授業）：38校 参加者数1,969人 <p>※出前授業20校 1,009人 出前体験授業14校 523人 Z o o mによるオンライン授業4校 437人</p> <p>○嵐山史跡の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史講座の開催：年2回 参加者：214人 ・文化財めぐりの実施：年3回 参加者：43人 ・企画展開連講演会の実施 台風のため中止 ・博物館セミナー 参加者120人 <p>○自然の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然史講座の開催：年7回（うち1回中止） 参加者数：108人 ・観察会の開催：年7回（うち3回中止） 参加者数：62人 <p>○川の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわはく研究室の開催：年12回 参加者数：670人 <p>○近代美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育普及プログラム「MOMASのとびら」の実施：年27回 参加者数：556人 <p>○文書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供体験教室（子供埼玉ものづくり体験教室）：年8回 参加者数：149人 キット販売：50セット（はんこ、巻物、立体地図、和本） 	<p>各館では、多彩な体験プログラムを実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数の制限や一部事業の開催中止等があったものの、校外学習等で来館した児童生徒には、体験事業や展示見学等を行い、文化芸術に触れる機会の充実を図った。また、県民の郷土埼玉の歴史や伝統文化に対する理解を深める各種講座を提供することができた。</p>	<p>文資</p>

	子供地図教室…中止 ・学校との連携（出前授業）：年6校 参加者数：310人 ○さいたま文学館 ・冬休み書初め教室の開催：3日間 参加者数：76人																										
オリパラおもてなしミュージアム → 施策28参照			文資																								
施策指標の達成状況・原因分析	<p>●埼玉県芸術文化祭への参加者数（人） [出典：埼玉県による実績調査]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>1,468,000</td> <td>1,172,164</td> <td>1,114,789</td> <td>805,886</td> <td>858,565</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>1,478,500</td> <td>1,484,000</td> <td>1,489,500</td> <td>1,495,000</td> <td>1,500,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【原因分析】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「地域文化事業」の一部や「埼玉県美術展覧会」等のイベントが延期・中止または縮小開催となり、参加者数が減少したため、年度目標を達成することができなかった。</p>			H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	参加者数	1,468,000	1,172,164	1,114,789	805,886	858,565			年度目標値			1,478,500	1,484,000	1,489,500	1,495,000	1,500,000	文資
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																				
参加者数	1,468,000	1,172,164	1,114,789	805,886	858,565																						
年度目標値			1,478,500	1,484,000	1,489,500	1,495,000	1,500,000																				
学識経験者の意見・提言	<p>県立博物館等の教育関連事業が大変充実し、各事業には相当数の参加者もあり、県民に対して多彩な学習機会を提供することができており高く評価したい。特に出前事業は児童生徒にとっても、いわば専門家の話を聞く貴重な経験となっていると考えられ、文化芸術活動とも合わせ、なお一層充実を図っていただきたい。なお、協賛事業への参加者数が減少傾向にある。「より周知を活発化する必要がある」「より広く周知する必要がある」との自己評価が繰り返されているが、課題を具体化し取り組むことが大切と思う。</p> <p>新型コロナウイルスの影響があり、一部中止を余儀なくされながらも、県立博物館・美術館等における教育・普及事業を推進できた。埼玉には多様な博物館があり、特に子供たちにとっては、こうした社会教育施設における学びの機会は、将来の進路にも影響を与える貴重な体験である。今後もアウトリーチ活動も含め積極的に活動を推進してほしい。</p>																										
今後の取組	<p>引き続き各特別支援学校において、芸術家等を招き、生徒に直接実演・講演等を行うことにより、障害のある子供たちの文化芸術活動を支援していく。</p> <p>埼玉県芸術文化祭の協賛事業について、新型コロナウイルス感染症の影響により中止等となっていた協賛実績のある事業や、その他市町村事業等に働き掛けることにより、協賛申請の増加を図る。</p> <p>県立博物館・美術館では、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮しつつ、魅力ある展示や体験事業を企画し、県民が直接文化財に触れる機会を確保していく。</p>		特教 文資																								

目標	IX	文化芸術の振興		
施策	28	伝統文化の保存と持続的な活用		
主な取組	○ 伝統文化の保存・活用・価値の再評価			
	○ 伝統文化の魅力発信と学ぶ機会の充実			
	○ 市町村の取組への支援			
担当課	文化資源課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要	事業の自己評価	担当課
文化遺産調査活用事業	4,059	<p>埼玉の歴史文化を再発見し、埼玉の魅力を世界に発信するため、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査を実施するほか、文化財の保存活用に関する計画（文化財保存活用地域計画）を作成する市町村に対して支援を行う。また、「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」として、新しい視点での博学連携プログラムを周知する。</p> <p>○無形民俗文化財調査研究として、映像記録「風布の回り念仏」作成、「玉敷神社のお獅子さま」アンケート分析及び現地調査（鴻巣市）、調査概報の刊行を実施</p> <p>○自然遺産調査研究として、入間川本流域を中心とした「入間川流域自然遺産」の植物分野における現地調査（飯能市）、動物分野の定点調査、地質分野の現地調査を実施</p> <p>○歴史遺産調査研究として、江戸時代後期に編さんされた「新編武蔵風土記稿」に係るデータベース編集及び現地調査（鴻巣市・寄居町）を実施</p> <p>○地域の文化財保存活用のマスタープラン策定支援事業については、全市町村を対象とした文化財保存活用地域計画に関する研修会を開催（年3回）</p> <p>○研究委嘱の成果である博学連携による学習プログラムの普及のために、「博学連携スキルアップ研修会」を実施</p>	<p>文化遺産調査活用事業については、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査について、各分野の調査テーマに基づき、計画的に調査を行い、新たな資料の収集と公表ができた。</p> <p>無形民俗文化財調査では映像記録の作成、現地調査及び調査概報の刊行、自然遺産調査では令和元年度から開始した入間川流域自然遺産についての本調査、歴史遺産調査では「新編武蔵風土記稿」に係る文化財に関する文献調査及び現地調査を実施した。</p> <p>また、研修会を通して文化財保存活用地域計画作成のノウハウを市町村に伝えることができた。</p> <p>子供パワーアップ事業については、博学連携スキルアップ研修会を開催し、県内小・中学校の教員や博物館等の職員に博学連携のノウハウ等を伝達することができた。</p> <p>また、ホームページやニュースレターを活用し、県立博物館・美術館等の博学連携の取組を県内小中学校や博物館施設に普及した。</p>	文資
文化財保護事業補助	141,260	<p>文化財の所有者・管理者等が行う文化財の保存事業に対し補助金を交付し、指定文化財の適切な管理を図る。</p> <p>○国指定文化財、県指定文化財の保存事業に対する補助金の交付（国指定7件、県指定45件）</p> <p>○埋蔵文化財包蔵地内で行われる建設工事に先立ち、市町村が実施する試し掘り等の調査に対する補助金の交付（41件）</p> <p>○県指定無形民俗文化財の後継者養成を目的とした事業に対する補助金の交付（6件）</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により完遂できなかった事業が複数あったが、申請のあった事業や緊急対応の大半については円滑に実施することができ、文化財の保存措置を適切に行うことができた。</p>	文資

<p>特別史跡埼玉古墳群保存活用事業</p>	<p>22,798</p>	<p>本県を代表する文化遺産であり、学術上の価値が特に高く我が国文化の象徴である特別史跡に指定されている埼玉古墳群は、大型古墳9基を中心とする東日本屈指の古墳群である。この埼玉古墳群の恒久的な保存を図るとともに、その価値を顕在化させ、広く県民に公開するために必要な整備を行う。</p> <p>○奥の山古墳整備工事（令和3年8月～令和4年3月）</p>	<p>令和2年度の奥の山古墳の整備工事（周堀の遺構表示）に引き続き、同古墳の整備工事（解説板・復元埴輪設置）を実施した。また、特別史跡埼玉古墳群の保存活用計画に基づき、整備基本計画（令和4年度～令和13年度）を策定した。</p>	<p>文資</p>
<p>埋蔵文化財保存活用事業</p>	<p>52,073</p>	<p>県が収蔵する出土文化財の整理・保存を推進し、埋蔵文化財保護思想の啓発を図る。</p> <p>○ぜい弱な出土品である金属製品、木製品の保存処理を実施（令和3年4月～令和4年3月）</p> <p>○「古代から教室へのメッセージ事業」を40校で実施（令和3年4月～令和4年3月）</p> <p>○遺跡見学会を実施（令和3年4月～令和4年3月）</p>	<p>令和2年度に引き続き、金属製品（300点）、木製品（320点）の保存処理を実施した。また、「古代から教室へのメッセージ事業」及び遺跡見学会についても継続的に実施し、学校教育及び社会教育の場で遺跡の遺構や遺物を公開し、生涯学習の推進に資することができた。</p>	<p>文資</p>
<p>県立博物館・美術館等における活動の充実</p>	<p>147,089</p>	<p>県立博物館・美術館等における主な企画展・特別展</p> <p>○歴史と民俗の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」（R3/3/23～R3/5/16 観覧者数：9,965人） ・特別展「埼玉考古50選」（R3/10/9～R3/11/23 観覧者数：7,093人）ほか <p>○さきたま史跡の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「運ぶー埼玉古墳群とモノの動きー」（R3/7/10～R3/9/12 観覧者数：11,449人）ほか <p>○嵐山史跡の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「実相 忍びの者」（R3/8/7～R3/9/20 観覧者数：2,704人）ほか <p>○自然の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「ジオパーク秩父へ出かけよう！」（R3/7/3～R3/10/17 観覧者数：34,079人）ほか <p>○川の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「すみか～身近なすみかを見てみよう～」（R3/7/10～R3/8/31 観覧者数：20,071人）ほか <p>○近代美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大・タイガー立石展 世界を描きつくせ！」（R3/11/16～R4/1/16 観覧者数：12,782人）ほか <p>○文書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「古物を伝えるー好古家たちの埼玉」（R3/12/14～R4/2/13 観覧者数：1,146人）ほか <p>○さいたま文学館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「『桃太郎侍』生みの親山手樹一郎の世界」（R4/1/15～R4/3/6 観覧者数：2,111人）ほか 	<p>各博物館・美術館等では、様々な創意工夫を凝らし、各館の特色を生かした魅力的な特別展や企画展を実施した。</p> <p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言を受けた臨時休館は行わなかったが、外出自粛の影響等もあり、入館者は例年よりも減少した。</p> <p>しかしその一方で、近代美術館がうらわ美術館と共同開催した大規模企画展「大・タイガー立石展 世界を描きつくせ！」や、夏休みに親子で学べる、自然の博物館の企画展「ジオパーク秩父へ出かけよう！」などの展覧会が好評を博し、多くの観覧者が訪れるなど、来館者が回復する兆しも見えた。</p>	<p>文資</p>

<p>オリパラおもてなしミュージアム</p>	<p>1,452</p>	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会やラグビーワールドカップ2019を契機として、国内外からの来訪者に対する県立美術館・博物館の「おもてなし環境」を整備し、埼玉の魅力を世界に発信するとともに、郷土や我が国の歴史・文化を誇りに思う心を醸成する。</p> <p>○歴史と民俗の博物館 企画展「太平記絵巻」開催（R3/7/1～R3/9/5 観覧者：4,501人）</p> <p>○さきたま史跡の博物館 企画展「運ぶ一埼玉古墳群とモノの動きー」開催（R3/7/10～R3/9/12 観覧者：11,449人）</p> <p>○嵐山史跡の博物館 企画展「実相 忍びの者」の開催（R3/8/7～R3/9/20 観覧者：2,704人）</p> <p>○自然の博物館 特別展「ジオパーク秩父へ出かけよう！」開催（R3/7/3～R3/10/17 観覧者：34,079人）</p> <p>○川の博物館 企画展「すみか～身近なすみかを見てみよう～」開催（R3/7/10～R3/8/31 観覧者：20,071人）</p> <p>○近代美術館 企画展「ボイス+パレルモ」の開催（R3/7/10～R/9/5 観覧者：8,455人）</p> <p>○さいたま文学館 企画展「サイタマdeスポーツ」開催（R3/7/17～R3/8/29 観覧者：547人）</p> <p>○文書館 「埼玉スポーツものがたり」開催（R3/7/1～R3/9/5 観覧者：468人）</p> <p>○県立博物館・美術館施設8館合同 ・パンフレット作成・配布 5,000部 ・多言語チラシ作成・配付 4,000部 英語・韓国語・中国語（簡体字・繁体字）各1,000部</p>	<p>埼玉県立博物館・美術館等施設8館の魅力を伝えるためのパンフレット及び多言語チラシを作成し、近県宿泊施設等で配布した。 各博物館・美術館等では、オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、それぞれの館の特性や収蔵コレクションを生かした様々な展覧会を開催することができた。</p>	<p>文資</p>
------------------------	--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●県立博物館等の年間利用者数（人） [出典：埼玉県による実績調査]</p> <p>【原因分析】 令和2年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により目標は達成できなかった。令和3年度は令和2年度と異なり、緊急事態宣言による臨時休館は実施しなかったが、教育普及事業の縮小等により、利用者が減少したものと考えられる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>915,000</td> <td>938,719</td> <td>832,423</td> <td>302,544</td> <td>540,788</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>938,000</td> <td>960,000</td> <td>970,000</td> <td>985,000</td> <td>1,000,000</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	利用者数	915,000	938,719	832,423	302,544	540,788			年度目標値			938,000	960,000	970,000	985,000	1,000,000	<p>文資</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																			
利用者数	915,000	938,719	832,423	302,544	540,788																					
年度目標値			938,000	960,000	970,000	985,000	1,000,000																			
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>文化財や文化遺産、特別史跡等の調査・管理は長期間、専門的な知識を必要とする事業で、次代につなぐためにも大変重要な事業であり、関係者の取組を高く評価したい。併せて多くの企画展等を開催されており、コロナ禍の外出自粛で博物館の利用者は一時的に落ち込んだが、令和3年度は反転増加した。内容の充実があったからこそその結果であると思う。今後も興味のわく展示を期待したい。</p> <p>NHK大河ドラマ「青天を衝け」との連携企画など、創意工夫を凝らした多くの企画が実施された。自然の博物館による企画展「ジオパーク秩父へ出かけよう！」は観覧者数が34,079人となり、注目すべき成果をあげている。指標である「県立博物館等の年間利用者数」も令和2年度と比較して令和3年度は大きく回復している。今後の企画が楽しみである。</p>																									
<p>今後の取組</p>	<p>文化遺産調査活用事業では、引き続き研修会を開催して最新の情報を提供し、市町村の文化財保存活用地域計画作成を支援する。</p> <p>特別史跡埼玉古墳群の整備については、令和3年度策定の整備基本計画に基づき、発掘調査や調査報告書の作成、遺構の表示や案内・解説板設置などの整備事業を引き続き実施していく。また、古墳群のより一層の理解のため、古墳群ガイドツアーやシンポジウムを開催していく。</p> <p>埋蔵文化財保存活用事業については、出土資料の適切な整理と保存処理を継続的に実施し、学校教育や生涯学習の場で活用していく。</p> <p>県立博物館・美術館等では、基礎調査の成果を展示等に反映させ内容の充実を図るとともに、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、デジタル等を生かした新しい発信方法をより一層取り入れていくことなどにより、年間の利用者数の増加を図っていく。</p>	<p>文資</p>																								